

参加型パフォーマンス

《Daily drawing, Daily page》vol.28

「この絵画、このページ」

オル太 [アーティスト・コレクティヴ | 東京]

コ本や honkbooks [プラクティショナー・コレクティヴ | 東京]



アーティスト・コレクティヴの「オル太」、
プラクティショナー・コレクティヴの「コ本や」とゲスト・アーティスト、
総勢10余名が、
坂口安吾の作品の朗読行為を端緒とした
参加型ドローイング・パフォーマンスを行います。
その記録/成果物であるドローイング群で本を作ります。

[日時] 3月21日[木] 13:30-16:30

[会場] まつだい「農舞台」・「アート/ブックのとても大きな部屋」展 アクティビティ・エリア

[料金] 参加費: 無料(ただし観覧会入場料が必要です)

作家ステートメント

「この絵画、このページ」

アーティスト・コレクティヴの「オル太」、プラクティショナー・コレクティヴの「コ本や」との2つのコレクティヴによる共同企画の参加型イベントです。一冊の本をめぐる、順に参加者は朗読しあい、同時にその言葉を手がかりにドローイングを描きます。文字を読み、音を聞き、線や形に表して、本の世界に入り込んだり、少し離れてみたり、一冊の本との関係性を開いていくことで、新しい余白を立ち上げていきます。何に描くかは、古本や木片、石といったマテリアルにも描くこともあり、画材選びから始めていきます。自分が描いたドローイングがいつの間にか他の手に渡り筆が重ねられ、新しいかたちになって戻って来る。朗読で本が巡るように絵も巡る。誰でも参加可能。今回は、「アート/ブックのとても大きな部屋:読む・作る・考える」に合わせて、新潟県で生まれた坂口安吾の自伝的小説『石の思い』から始まり、代表作の『桜の森の満開の下』に至るまで、農舞台で安吾と出会しましょう。

オル太(おると)

2009年結成。井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi の1980年代生まれの6名による表現集団。地域の風土・文化・感性、サブカルチャーやマスメディアを通じて醸成された記憶にインスピレーションを得ながら、人間の根源的な欲求や感覚を軸にしたパフォーマンス作品を中心に活動する。第14回岡本太郎現代芸術賞にて岡本太郎賞受賞(2011年)。近年では、「Hybridizing Earth Discussing Multitude」釜山ビエンナーレ 2016 や「パノラマ庭園——動的生態系にする」アセンブリッジ・ナゴヤ 2016 に参加した。
<http://www.olta.jp/>

コ本や honkbooks

2016年より活動するプラクティショナー・コレクティヴ。映像や書籍の制作、展覧会やプロジェクトを企画するメディア・プロダクションであり、活動拠点としてフラッグシップショップのコ本や(東京都北区王子)を運営する。青柳菜摘/だつお(アーティスト/1990年生まれ)、清水玄(ブック・ディレクター/1984年生まれ)、和田信太郎(ドキュメント・ディレクター/1984年生まれ)主宰。3人ともに東京藝術大学大学院映像研究科出身。最近の活動として、展覧会シリーズ「残存のインタラクション」企画(Kanzan Gallery, 2017)、「ワグナー・プロジェクト」メディア・ディレクション(神奈川芸術劇場 KAAT, 2017)、「新しい洞窟——もうひとつの岐阜おおがきビエンナーレ 2017」ディレクション(2017)など。別名 thoasa。 <http://honkbooks.com/>